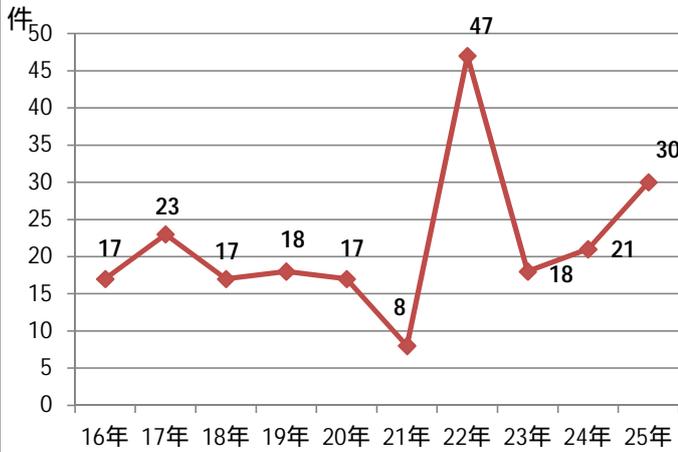


# 熱中症による労働災害発生状況(全国統計)

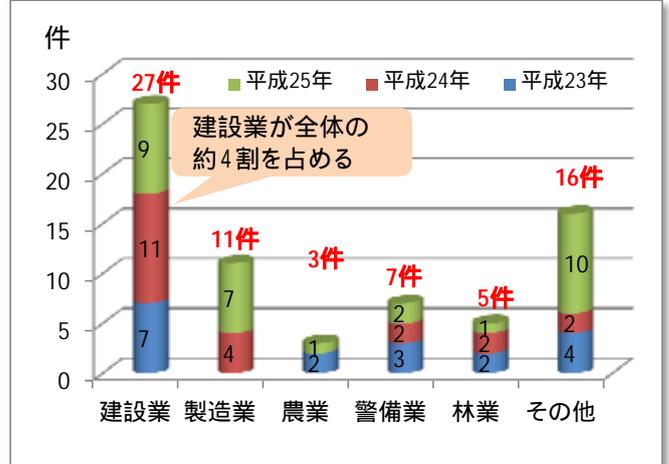


厚生労働省 長崎労働局

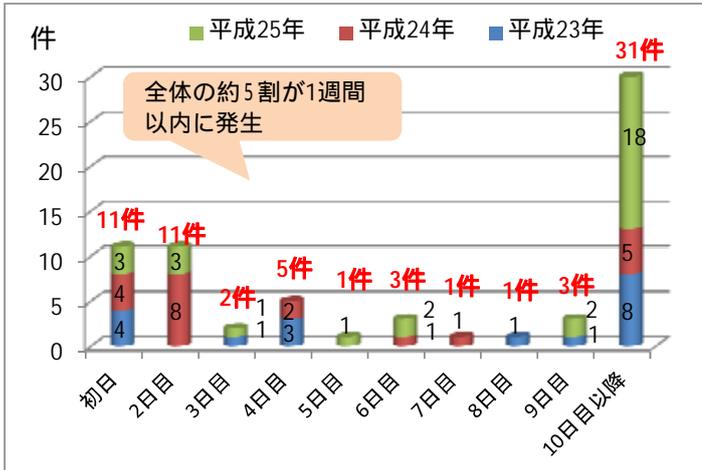
### 熱中症による死亡者数の推移



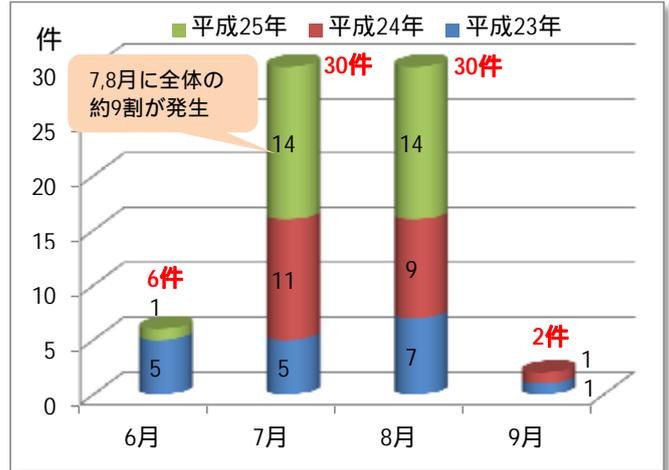
### 業種別 - 熱中症死亡災害発生状況



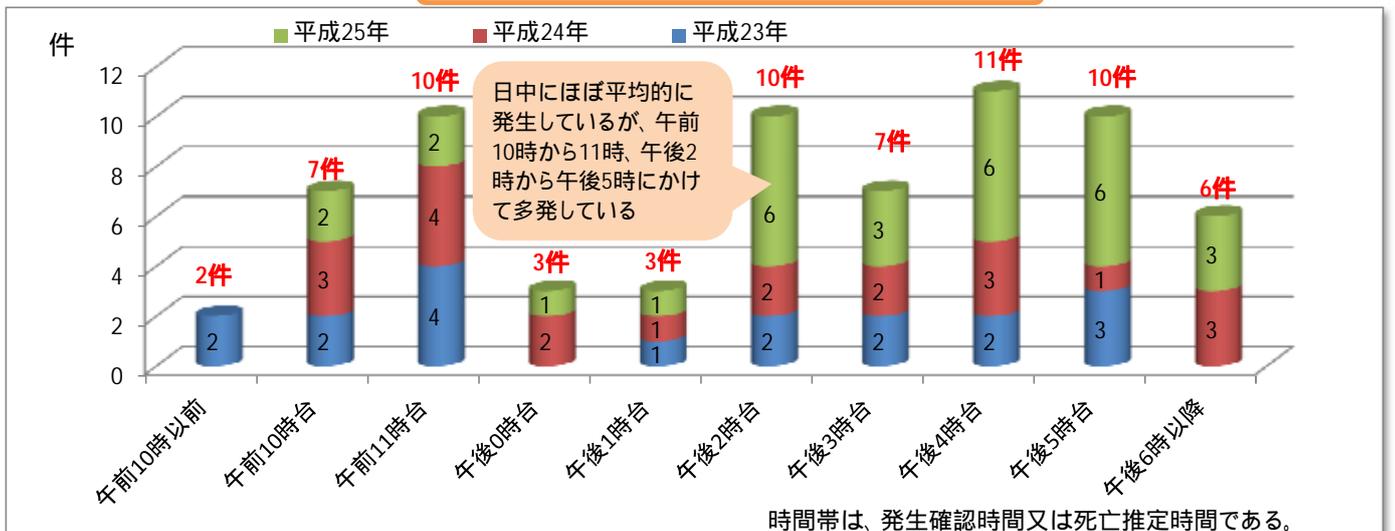
### 作業開始からの日数別 - 熱中症死亡災害発生状況



### 月別 - 熱中症死亡災害発生状況



### 時間帯別 - 熱中症死亡災害発生状況



時間帯は、発生確認時間又は死亡推定時間である。

## 平成25年の主な熱中症による死亡災害発生状況の詳細

No.	月	業種	年代	発生状況の詳細
1	6月	警備業	60 歳代	被災者は、工事現場において交通誘導の業務に就いており、被災日の午後3時頃から、体調不良のため駐車した車の中で休憩していたところ、午後5時頃同僚に意識が無いところを発見され、救急車で搬送されたが収容先の病院で死亡したものの。
2	7月	食料品製造業	40 歳代	被災者は、菌床を高温殺菌釜に搬入して殺菌後、釜から取り出して放冷室に並べる作業を行っていたが、いったん事務所に戻り再度一人で放冷室に戻り、その後、意識を失って倒れているところを同僚に発見され、直ぐに病院に搬送されたが死亡したものの。
3	7月	金属製品製造業	40 歳代	被災者は、鉄筋の切断作業に従事し、終業後帰宅途中に会社の近くで倒れ、通行人が発見して通報し、病院に救急搬送されたが、翌日死亡したものの。
4	7月	農業	50 歳代	被災者は、畑作業をしていたが、午後4時30分頃に気分が悪くなり、意識を失い、同僚が病院に搬送したが、翌日死亡したものの。
5	7月	産業廃棄物処理業	70 歳代	被災者は、産業廃棄物処分場内において廃棄物の分別作業中、気分が悪くなり、休憩場所にて休憩していたが、意識がもうろうとしてきたため救急車で病院に搬送されたが、翌朝死亡したものの。
6	8月	建設業	10 歳代	被災者は、住宅の解体作業をしていたところ、午後4時30分頃に吐き気、ふらつきなどの症状が出たため、椅子に座って休憩させ、午後5時40分以降は寝かせて休ませていたが症状が回復しなかったため、午後6時30分頃に病院に搬送され、午後9時頃に死亡したものの。
7	8月	土木工事業	40 歳代	被災者は、午前8時頃から工事現場で型枠の組立て作業を行っていたが、午後5時頃に顔色が悪いことに同僚が気づき、自宅にまで送るも意識がなくなり、その後、病院に搬送したが死亡が確認されたものの。
8	8月	卸売・小売業	30 歳代	被災者は、コンクリートミキサード車を運転し、工事現場に向かい、生コンを納品した後、汚れた道路を清掃中、倒れてけいれんを起こしたため、救急車により病院に搬送したが、翌日死亡したものの。
9	8月	畜産業	60 歳代	被災者は、作業場で生鮮食品の包装機を湯で洗っていたところ、前のめりになって倒れているところを同僚に発見され、救急車で病院に搬送されたが死亡したものの。
10	8月	派遣業	60 歳代	被災者は、事務所駐車場の草取りを一人で行っていたところ、駐車場で倒れているのを発見され、救急車で病院に搬送されたが死亡したものの。

4 は長崎県内の死亡災害です。

### 【参考事項】

上記の主な死亡災害の10件以外に平成25年において計30件の死亡災害が発生しました。

- (1) 28人については、WBGTの測定を行っていなかった。
- (2) 全員が、計画的な熱への順化期間が設定されていなかった。
- (3) 11人については、単独作業を実施していた。
- (4) 14人については、自覚症状の有無に関わらない定期的な水分・塩分の摂取を行っていなかった。
- (5) 15人については、休憩場所を設置していなかった。
- (6) 14人については、糖尿病等の熱中症の発症に影響を与えるおそれのある疾病を有していた(疾病の影響の程度は不明)。
- (7) 4人については、体調不良があった。